

FUJIEDA ROTARY CLUB

Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL：054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL：054-647-2300 FAX：054-647-2040
E-mail：club1972@fujieda-rotary.org



音羽山清水寺 烏菟沙摩明王

写真提供：事務局

会長：青島 克郎 副会長：松葉 隆夫 幹事：仲田 廣志 副幹事：増田 國衛

第1799回

<ソング> 我等の生業
<ソングリーダー> 鈴木 廣利君



2008-2009年度 RIテーマ

夢をかたちに
李 東建

会長報告

青島 克郎君

先週の例会は休会でした。1日1日はアツという間に過ぎるのですが1週間空ただけで随分と久しぶりの例会という感じが致します。それだけ例会で皆さんとお会いできるのが楽しみということでしょうか。

前年度までは各クラブの全員に配布されましたガバナー月信が今年度からはメール配信となり当クラブの会報と同じように数部が印刷され例会のテーブルに置かれるようになりました。この様な方法は大幅なコストの削減が出来、環境にも良いと思われませんが例会の時に目を通さないと自宅なり会社なりに戻って印刷しあらためて読む事は少ないのではないのでしょうか。

2月のガバナー月信に「言論の国アメリカ」と題して牧田ガバナーの記事が載っています。オバマ大統領の就任演説に触れ、200万人の大群衆の熱気の中、巧みな弁論技術と自信溢れる堂々たる態度で期待に反しない素晴らしい演説に魅了されたと有ります。

また、1961年ジョン・F・ケネディの大統領就任演説で「国が貴方に何をしてくれたかを問うのではなく、貴方が国のために何をなし得るかを問いなさい」という歴史に残る名演説にも触れ、この国という文字をロータリーと置き換えてみようといっています。ちなみにケネディ氏はロータリアンだったそうです。

議院内閣制と大統領制の根本的な違いはありませんがアメリカ大統領の就任演説そしてその跡のパワフルな実行力を見ていると大統領が替わること

で大きな舵取りがされ巨大な船が次第に改革に向け方向が変わっていくようで羨ましく感じます。

一方、日本の総理大臣は政党や既得権益など色々なしがらみにがんじがらめで身動きできず政局に翻弄され総理大臣がこの日本をどうしたいんだということが全く伝わってきません。外国に対してもとても恥ずかしい思いが致します。

さて今年も所得税確定申告の時期が来ました。私も過日申告を済ませ、どうして税金を納付しようか金策に頭を悩ませているところです。

あるところでは税金が湯水のごとく無駄に消費され、一方では必要なところにはなかなか回っていかない。とても税金が効率的に有効に使われているとは思えません。

ケネディ大統領の演説のように進んで納税して国に貢献をしたくなる様な日が来る日を切望いたします。

幹事報告

仲田 廣志君

- ザ・ロータリアン誌3月号が届いております。
- ガバナー月信2009.2 No 8が届いております。
- 榛南ロータリークラブの週報が届いております。
- RIより人類のために活動しますVのCDが届いております。
- RI会長賞の提出のお願いが届いております。
- 2620地区の国際奉仕委員会より「明日の生活に苦しむ人々に暖かい支援を」ということで物品援助のお願いが届いております。
- 藤枝子供と本をつなぐ会通信が届いております。

出席報告

青島 彰君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
22 / 36 61.11%	29 / 37 78.38%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

石垣君 後藤君 杉山君 鈴木勝君

竹田君 松葉隆君 落合君 水野君 望月晃君

飯塚君 板倉君 鈴木舜君 仲田晃君 望月志君

(2)メイクアップ者

櫻井 龍太君(藤枝南)

スマイルBOX

青島 彰君

・皆出席表彰ありがとうございました。

松葉 隆夫君

スマイル累計額 426,000円

国際奉仕を考える例会

国際奉仕担当 酒向 謙次君

国際奉仕の今年度のテーマは、昨年同様 地域の活性化に繋がる国際交流とし、地元 静岡産業大 情報学部留学生を対象とした会員会社訪問を通じた国際交流を実施いたしました。協力会社 9社 参加留学生 48名を昨年 11月に実施いたしました。

本日は、2名の留学生から報告を戴きます。私の中には、日本が忘れかけた明治の精神を留学生が呼び覚ましてくれるのでは、との思いがあります。

本日の発表者であるプロタープ ダス(バン格拉ディシュ)さんは、明確に日本を留学先に選んだ理由に東アジアの日本が、何故、西欧諸国と対等に出来ているのか?を勉強に来た、と話してくれました。これは、日本人こそが気付いていない大きな点です。我々日本人は、ややもすると自虐的に苛め過ぎる傾向があります。自信を持って頑張りたいと思います。では、お2人に訪問した日本企業の印象を聞かせ戴きます。

<静岡産業大学留学生>

フィンティトゥイ
フォンさん
(ベトナム3年)



静岡産業大学情

報学部情報デザイン学科3年のフィンティトゥイフォンと申します。ベトナムから日本の雪を見たいので留学をしました。しかし、静岡には雪があまり降りませんでした。

私は、1年生の時から将来の進路を設計し始めました。実現するために大学で4年の時間をどの様に有効に使うかを明確化しました。

3年生になり、社会に入り込む扉の直前だと自覚しました。社会人として知識だけでなくマナーや責任感や組織内の協調性なども大事だと教えられたことがきっかけで今回の会社見学に参加することにしました。

まず、江崎新聞株式会社藤枝店に見学に行かせていただいた時、夕刊の配達時間の忙しいところにも関わらず、笑顔で「いらっしやいませ」と声をかけてくださって感動しました。さらに、新聞配達が本業ですが、地域に貢献する意識を強く感じました。配達するのは新聞だけでなく、生活に必要な情報サービスの提供、そして、地域とのふれあいが非常に印象的でした。

次は顧客の要望を充たすだけで、お客さんのニーズにあった最適な提案を提供できないと高いレベルのサービス会社とは言えないと、ランドマークプレス株式会社・石垣印刷株式会社に見学の際教えられました。さらに、受注から完成するまでの仕事の流れを簡単に体験させていただいて非常に楽しかったです。また、広告も自分の希望職種の1つなので、役立つ事がいっぱい勉強できました。

世界において最先端技術が有名な日本に勉強に来た私たちにとって驚いたことがたくさんあります。例えば、日本では停電はあまり起きな

いということがその1つです。ベトナムより日本には電化製品が多く、特にラッシュアワーでも落雷でも電圧が安定していることに非常に興味を持ち、去年から中部電力に見学に行きたかったのですが授業の関係で参加することができず、今回まで待っていました。停電の原因になる可能性がある地震や雷などの動きを予測し、停電した所をすぐ回復できるように巨大なシステムで管理されています。特にクレーンに乗って高い所での電線修理作業の体験をさせていただいたのは印象的で忘れられません。

また、ベトナムにはあまり見かけない独り暮らしのお年寄りが日本には多いようです。日本では最先端技術の応用幅が広く商品生産から情報セキュリティ・生活確保までになっていると教えられたのは中央防犯株式会社にお伺いした時です。色々な事故が起こる可能性を予測し、セキュリティシステムを強化することが印象的でした。今回の会社見学に参加して、様々な体験、様々な勉強ができました。その勉強は就職活動に限らず私の一生の宝物になりました。

プロダープ ダ
スさん
(バングラデシ
ュ1年)



みなさん、こんにちは。2008年の11月13日にツムラ静岡工場を見学させていただきました静岡産業大学国際情報学科1年のプロダープ ダスと申します。バングラデシュの出身です。

ツムラ静岡工場を見学させていただく前、日本の工場には入ったことがありませんでした。それも薬の工場ですから全然知識もありませんでした。工場は働いている人が多くて混んでいる、機械から大きな音が出る、薬の工場だから薬の強い臭いがするイメージがありました。薬の臭いは苦手でしたがツムラ工場の見学にはす

ごく興味を持って行きました。

それは、病気のとき命を守ってくれる薬の作り方や薬の知識について知りたかったからです。または、世界で経済的に二番目にある国の日本の企業に興味があるからです。

工場見学に行って一番気になったのは、工場の人たちの温かい気持ちでした。私たちはツムラ工場に着いたら社員の人が明るい顔で「いらっしゃいませ」と言って中まで連れて行ってくださいました。工場の中や部屋には薬の臭いではなく、とてもいい匂いがしていました。私たちのために工場の人達は前から準備をしていていました。

最初は色々なスライドを見せながら工場の様々な紹介をしてくださいました。工場で働いている人たち、薬の作り方、材料のこと、ツムラ工場は何で藤枝につくったのか、日本と中国にあるツムラの他の工場のこと、このように色々なことを教えてくれました。材料は中国から持って来ると聞いて、私の国でも見たような材料がたくさんあるのでバングラデシュも薬の材料を外国で売れるようになると思いなと思いました。

工場で気に入ったもう一つのことは、とても細かい所まで気にすることで、例えば薬を作るときはだいたい機械がやって、人間がオペレーターをしています。人間がやったら色々なウィルスが入るかもしれません。ドアは二つあって一つを開くときは他のドアを必ず閉め順番に開きます。空気から虫などが入らないようにしていました。これはとてもユニークでした。人が手で触らないで薬ができているからとてもいいことだと思いました。

外国人学生にとって日本の企業の中をみる機会はとても大きいチャンスです。このようなチャンスを作ってくださった関係者の方たちに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(担当/鈴木廣)